

読むミルク



『6次産業』が、今、注目されています。

ご存知のように、「1次産業」とは農林業、漁業、鉱業であり、「2次産業」は製造業や建築業や工業、「3次産業」は小売業や運送業、サービス業を指します。

6次産業は、これらの連携を表す「1次+2次+3次」

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

6次」という造語で、農業経済学者の今村奈良臣氏が提唱したものです。

6次産業化支援では、これまで経済産業省と農林水産省による「農商工等連携支援」がありましたが、今年3月には、「6次産業化法」が、農林水産省により施行されたことで活

業界団体などの「集団」を支援対象としたものがほとんどでしたが、今回は個人も対象であり、さらに女性経営者を支援する事業も掲げられています。6次産業に取り組み女性へ向けて、ネットワークの形成や異業種・民間企業との交流・情報交換の場

業者が直接販売することや、地場産品を使った食品を提供するカフェやレストランの経営、加工品販売など……彼女たちが活躍できる裾野は広いのです。また、女性独自の観点から、規模は小さくても、新たな事業創出がこの6次産業では期待できます。

6次産業化女性に好機

「農業総産出額がここ20年間で全国平均が27%減少に

発な動きが促進されてきているようです。これは、農林漁業者による地域の資源を活用した新事業の創出などをバックアップする法律です。

なぜ、私がこの法律に興味をもったかという点、これまでの支援策は、農協といった

構築など幅広い活動が打ち出されています。

私がおこなっている「女性起業家育成セミナー受講者」にも対象者がいます。地域農林水産物のブランド化だけでなく、身内が作った農作物をインターネットを活用して消

対して北陸地域は33%減少(北陸農政局)という状況を考えると、女性起業家の育成に6次産業を加えることは、女性の社会参画やワーク・ライフ・バランスの確立から地域振興につながる取り組みであると考えています。